



○「地形図」平成25年度島根県高校入試→  
毎年島根県の高校入試社会科の地理問題で地形図が出題されています。右は(※裏面参照)、平成25年度高校入学者選抜の問題です。徳島市を題材にした出題で、「阿波おどり会館」に訪れる設定で問題が作成されています。

これまで多くの地域の地図が入試問題に使われてきました。行ったことがある場所もあれば、見知らぬ場所もあります。見知らぬ場所が出題された時は、その場所へ行ってみたいくなる時もあります。

その一つが、さくらんぼ東根駅のある東根市です。果物が駅名になっていることに惹かれたからで、ここではマラソン大会も開催されています。いつか大会に出場することで訪れてみたいと思っています。

受検生は、地形図から読み取れることから一生懸命問題を解くのですが、中には地図を眺めながらそこに広がる景観を再構成する読図能力が必要となる問題もあります。徳島市眉山の問題や、数年前の函館山の問題などは、行ったことがあるので、景観を思い浮かべながら地図を見て解いてみることができました。その逆は…。

最近では、スマホで地図を衛星写真やストリートビューで見ることができます。また、カーナビでは立体的、つまり3次元的に地図を見ることもできます。このため、2次元の地形図から3次元の景観をイメージすることができる力が、難しく言えば想像力や推理力が弱くなっている人もいるかもしれません。そういう意味でも地理の学習は大事です。

若い頃に車で出かける時は、今のように出発時にカーナビに行き先をセットしてから出発するのではなく、ドライブマップで行き先までの道を下調べしてから出発したものです。マップではわからない便利で大きな道があったり、近道があったりします。その発見もドライブの醍醐味の一つでもありました。また、道を間違えて思わぬ発見をしたりすることもありました。

家族旅行や受験旅行などで県外に列車で行く時は、時刻表などでスムーズな乗り換えや最適な路線などを調べてから出発しました。乗り換え時間がどれだけあればいいかわからず、乗り換えに失敗することもありました。それが旅のおもしろさでもありました。今は、スマホですぐ最短で最適なルートを検索することができます。時間の短縮、失敗のない旅行にはつながりますが、それでよいのか考えてしまうこともあります。行く先の立ち寄り先も同じです。いろいろ調べてから行かないと、昔は今ほど簡単に情報が手に入りませんでした。今は、関心がある場所だけでなく、インターネット等でみんなが良いとするところをなぞっていく感じにもなっています。

研修旅行に行く際も、事前にどれだけ行く場所に関心をもつか、また自分なりに調べていくかで学びや思い出も全然違ってきます。登山も、頂上に立つことだけが目的ならヘリコプターで連れて行ってもらえばそれで終わりですが、それでは感動はあまりなく、思い出にも残りにくいと思います。「景色がきれいだな〜」くらいで終わると思います。登山の準備、登山のしんどさなどを含めた頂上の景色なら、雲が多くて景色が十分に楽しめなくても思い出に残るはずですよ。

学習、部活動、旅行…なんでも主体的に、つまり自分で取り組んでいく姿勢が大事です。簡単さや便利さだけを追い求め、結果だけを重視して過程を軽視すると、得るものは少ないかもしれません。研修旅行が良い学びや思い出につながることを願っています。

問9 下線部(㊄)について、みなみさんは発表後、実際に徳島市にある「阿波おどり会館」を訪れてみた。地図③はその時に使用した地形図である。これを見て、次の1〜3に答えなさい。  
2 「阿波おどり会館」を訪れたみなみさんは、「眉山ロープウェイ」に乗った。頂上に向かう車窓から〇印の地域を見たときの写真として最も適当なものを、次のア〜エから一つ選んで記号で答えなさい。(写真省略)  
3 みなみさんは、「阿波おどり会館」から「とくしま」駅に帰る途中、ある施設に立ち寄った。次の説明文は、その道順を示したものである。みなみさんが立ち寄った施設を答えなさい。(正解は、図書館)



〔地図③〕は、実際の掲載地図の上下各1/3程度を削愛し、問題文等のレイアウトは、適宜変更している。